

第 59 期 報告書

2020年4月1日 ~ 2021年3月31日

HEPHAIST

それは価値を創造する個性ある集団です。

ヒーハイト株式会社

証券コード：6433



第60期経営方針

『不易流行』

社会構造の変革期こそ、経営や業務の「不易流行」を再確認します。

代表取締役社長 尾崎浩太

皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜わり、厚く御礼申し上げます。

当社第59期報告書をお届けするにあたり、平素のご支援を深く感謝し、ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う景気の悪化が続いており、依然として先行き不透明な状況にあります。第3四半期以降中国向け輸出の回復や半導体関連等の生産の一部で持ち直しの動きが見られました。

このような状況のもと、「生産効率や品質の向上につながる改善活動」及び「蓄積した技術を応用した新製品開発」に全社を挙げて取り組んで参りました。

また、当社グループでは新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、取引先、従業員の健康と安全を最優先に、感染防止に取り組んで参りました。

当連結会計年度の経営成績は、第2四半期までは、新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞による影響を受け低調に推移しましたが、第3四半期以降、直動機器、精密部品加工の売上が回復し、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける前の水準まで回復してきております。

その結果、当連結会計年度の売上高は2,248,947千円（前連結会計年度比3.0%減）となりましたが、第3四半期以降の売上高は1,354,316千円（前年同期比29.8%増）となりました。

利益面につきましては、売上高の回復に伴い、営業利益88,092千円（前年同期は、営業損失21,428千円）、経常利益93,320千円（前年同期は、経常損失25,502千円）、親会社株主に帰属する当期純利益41,920千円（前年同期は、親会社株主に帰属する当期純損失342,956千円）となりました。

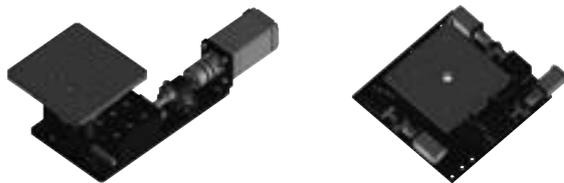
主力製品であります直動機器につきましては、第2四半期までは、米中貿易摩擦による中国市場の停滞及び新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全般的な産業用機械の設備投資低迷により受注が落ち込んでいましたが、当連結会計年度の売上高は1,246,157千円（前連結会計年度比0.3%増）、第3四半期以降の売上高は723,712千円（前年同期比27.0%増）となりました。

精密部品加工につきましては、世界的なレーススケジュールの調整によるレース部品の生産停止期間もあり、当連結会計年度の売上高は751,249千円（前連結会計年度比6.6%減）となりましたが、第3四半期以降の売上高は499,671千円（前年同期比48.1%増）と新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける前の水準まで回復してきております。

ユニット製品につきましては、第3四半期では主に中国の液晶製造装置等の産業用製造装置向けの販売が増加しましたが、当連結会計年度としての売上高は251,540千円（前連結会計年度比7.9%減）となり、第3四半期以降の売上高は130,933千円（前年同期比3.6%減）となりました。

新製品

「超精密一軸ステージ NAFHW1D-100」 「超精密XYθアライメントステージ NAFHW3C-16」



今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染による景気の先行きが不透明なこと及び、レース用部品の減少も見込まれる一方で、長期的には中国における産業への設備投資の伸張、IoTやAIの進展による省人化、機械化、合理化の設備投資の期待もあると予想されます。

このような状況のなか、次期の連結業績見通しにつきましては、売上高2,319百万円（前期比3.1%増）、営業利益102百万円（前期比15.9%増）、経常利益99百万円（前期比6.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益69百万円（前期比65.7%増）を見込んでおります。

当社グループの業績は主要市場である産業用機械業界、電子部品業界及び自動車関連業界等の国内・海外における設備投資の動向に大きく影響を受けております。

また、新型コロナウイルスの影響により、全世界が混乱している状況にあり、長期的な対策や対応が必要であると考えられ、当社グループとしても、従業員全員の情報共有及び感染防止に向けた対策・対応に取り組んでおります。

当社グループは、このような事業環境の中で、納期遵守を第一の課題と認識し、顧客満足度の向上のため、営業・技術・製造の三位一体体制の更なる強化に加え、財務面を中心とした管理部門との連携強化によるQCDの追求による顧客対応力の向上、製品力の向上、固定費・変動費の削減等を強力に推し進め、収益の向上及び経営基盤の強化に努めて参ります。

主な重点方針は以下のとおりであります。

- ① QCDの徹底追求による顧客対応力の強化
- ② 生産能力増強とコストダウンによる採算性向上
- ③ 顧客ニーズに適合した応用製品の開発と販売
- ④ 提案型技術営業による新規顧客開拓
- ⑤ 感染症対策として、情報収集、対応策の検討と実施

（注）QCDとは、高品質(Quality)、低価格(Cost)、短納期(Delivery)の略。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、配当を行うことを基本方針としております。

また、内部留保資金につきましては、財務体質の強化及び将来にわたる安定した株主利益の確保のため、事業の拡大・合理化投資及び厳しい経営環境に勝ち残るための新技術・新工法開発のために有効活用していきたいと考えております。

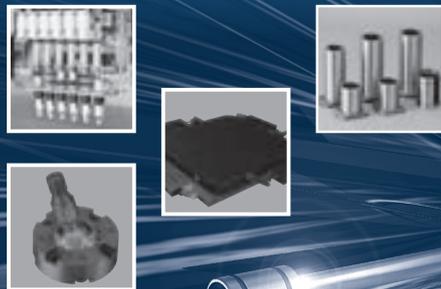
この方針のもと、第59期の配当につきましては、1株当たり1円の配当とさせていただきますこととなりました。

第60期の配当につきましては、1株当たり年間1円を実施する予定です。

株主・投資家の皆様には、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

事業概要

当社は、1962年の設立以来、リニアポールブッシュのパイオニアメーカーとして、常に新しいテクノロジーを追求し、多様化するニーズに応えるべく技術力と創造力により高品質・高付加価値製品を提供して参りました。これからも長年蓄積した固有技術を活かし、事業の柱となるリニアポールブッシュなどの直動機器、精密部品加工及びポジショニングステージなどのユニット製品の3つの事業領域を中心に新たな分野へ挑戦し、企業価値の拡大を目指して参ります。



直動機器

円筒直動軸受製品
直動軸受応用製品
及びモジュール
球面軸受等

精密部品加工

レース用部品加工
精密部品加工
受託開発等

ユニット製品

XYθステージ
Zチルトステージ
XYθZステージ
多軸ステージ
その他システム製品等

連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	59期 2021年3月31日	58期(ご参考) 2020年3月31日
資産の部		
流動資産	2,609,044	2,277,110
固定資産	1,980,431	1,976,645
有形固定資産	1,706,690	1,698,341
無形固定資産	17,780	24,628
投資その他の資産	255,960	253,674
資産合計	4,589,475	4,253,756
負債の部		
流動負債	932,520	734,221
固定負債	651,947	557,631
負債合計	1,584,468	1,291,852
純資産の部		
株主資本	2,999,562	2,957,642
その他の包括利益累計額	5,445	4,260
純資産合計	3,005,007	2,961,903
負債純資産合計	4,589,475	4,253,756

連結損益計算書

(単位：千円)

科目	59期 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	58期(ご参考) 2019年4月1日から 2020年3月31日まで
売上高	2,248,947	2,319,458
売上原価	1,705,087	1,855,093
売上総利益	543,860	464,365
販売費及び一般管理費	455,767	485,794
営業利益又は営業損失(△)	88,092	△21,428
営業外収益	9,065	6,352
営業外費用	3,838	10,426
経常利益又は経常損失(△)	93,320	△25,502
特別利益	1,566	14
特別損失	540	356,200
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失(△)	94,346	△381,687
法人税、住民税及び事業税	26,814	5,736
法人税等調整額	25,611	△44,468
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	41,920	△342,956

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	59期 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	58期(ご参考) 2019年4月1日から 2020年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー①	166,889	△79,081
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△133,846	△134,396
財務活動によるキャッシュ・フロー③	99,932	83,738
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,132	△2,119
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	134,108	△131,859
現金及び現金同等物の期首残高	819,706	951,565
現金及び現金同等物の期末残高	953,814	819,706

連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

59期 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	株主資本				株主資本 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	
当期首残高	732,552	679,512	1,589,494	△43,916	2,957,642
当期変動額					
親会社株主に 帰属する当期純利益			41,920		41,920
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	41,920	—	41,920
当期末残高	732,552	679,512	1,631,414	△43,916	2,999,562

59期 2020年4月1日から 2021年3月31日まで	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	556	3,704	4,260	2,961,903
当期変動額				
親会社株主に 帰属する当期純利益				41,920
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	△323	1,507	1,184	1,184
当期変動額合計	△323	1,507	1,184	43,104
当期末残高	233	5,211	5,445	3,005,007

連結貸借対照表のポイント

資産の部

現金及び預金が134,108千円、売上債権が236,820千円、それぞれ増加いたしました。

負債の部

仕入債務が123,756千円、借入金が151,026千円、それぞれ増加いたしました。

純資産の部

利益剰余金が41,920千円増加いたしました。

連結損益計算書のポイント

第2四半期までは新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、低調に推移しましたが、第3四半期以降、直動機器、精密部品加工の売上が回復し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受ける前の水準まで回復いたしました。

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

- 仕入債務の増加等により、資金が増加しました。
- 固定資産の取得により、資金が減少しました。
- 借入金の収入により、資金が増加しました。

連結株主資本等変動計算書のポイント

純資産は、利益剰余金が増加いたしました。

株式の状況

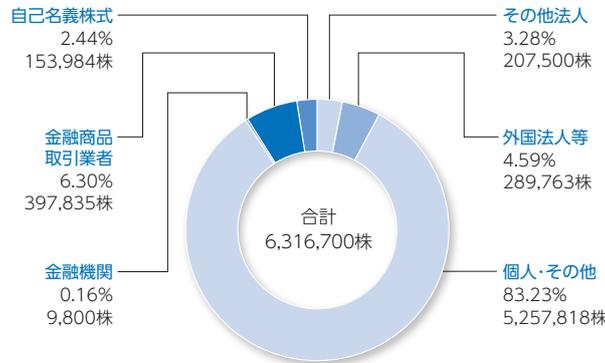
株式の状況 (2021年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 18,720,000株
発行済株式の総数 (自己株式153,984株を除く) 6,162,716株
大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
尾崎 浩太	1,403	22.77
尾崎 文彦	1,263	20.50
小川 由晃	180	2.92
岩井コスモ証券株式会社	100	1.63
楽天証券株式会社	97	1.59
株式会社SBI証券	89	1.45
有上 宏	85	1.38
高水 永夫	81	1.31
富安 理之	70	1.14
三浦 美保子	60	0.99

(注) 1. 持株比率は自己株式 (153,984株) を控除して計算しております。
2. 当社は、自己株式を153,984株保有しておりますが、上記大株主から除いております。

所有者別株式数 (2021年3月31日現在)



第59期定時株主総会に関するご報告

2021年6月25日開催の第59期定時株主総会における報告内容及び決議内容は、下記の通りです。

記

報告事項

第59期 (2020年4月1日から2021年3月31日まで) 事業報告、連結計算書類及び計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案 剰余金の処分の件

本件は、原案どおり承認可決されました。
期末配当金は、1株につき1円となります。

第2号議案 取締役に対する譲渡制限付株式の付与のための報酬決定の件

本件は、原案どおり社外取締役を除く取締役5名に対し、現物出資財産の給付を要することなく、譲渡制限付株式を割当てることにつき承認可決されました。

第59期期末配当金のお支払いについて

本総会の決議により、第59期期末配当金は1株につき1円と決定いたしました。

1. 口座振込をご指定いただいている株主様は、同封の「第59期期末配当金計算書」及び「配当金振込先ご確認のご案内」によりご確認ください。

株式数比例配分方式を選択されている株主様の配当金のお振込先につきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

2. 口座振込をご指定いただいていない株主様は、同封の「第59期期末配当金領収証」により、払渡期間中 (2021年6月28日~2021年7月30日) に最寄りのゆうちょ銀行又は郵便局の貯金窓口で配当金をお受取りください。

会社の概要

会社の概要 (2021年3月31日現在)

社名 ヒーハイト株式会社

本社 〒350-1151 埼玉県川越市今福580番地1

埼玉工場 〒350-1151 埼玉県川越市今福580番地1
[敷地面積16,677㎡ 建物面積7,280㎡]
TEL 049-273-7000 (代表)
FAX 049-273-7001

秋田工場 〒010-1653 秋田県秋田市豊岩小山山下田454番地
(豊岩工業団地内)
[敷地面積36,292㎡ 建物面積4,525㎡]
TEL 018-828-0111
FAX 018-828-1192

海外 赫菲 (上海) 軸承商貿有限公司 (中華人民共和国)

設立 1962年 (昭和37年) 7月19日

資本金 732,552,000円

従業員 108名 (30名)
(外、平均臨時雇用者数)

役員 (2021年6月25日現在)

代表取締役社長	尾崎 浩太
専務取締役	尾崎 文彦
常務取締役	福留 弘人
取締役	菜花 有三
取締役	佐々木 宏行
取締役 (社外)	天野 雅人
常勤監査役	荒井 寿晃
監査役 (社外)	上條 弘
監査役 (社外)	菅野 浩正

株主メモ

事業年度 4月1日~翌年3月31日

定時株主総会 毎年6月

期末配当金受領株主確定日 3月31日 (中間配当を行う場合、毎年9月30日)

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号

電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

上場金融証券取引所 東京証券取引所 (JASDAQスタンダード市場)

証券コード 6433

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告の方法により行う。

公告掲載URL <http://www.hephaist.co.jp>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【株式会社のお手続きに関するお問い合わせ】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部テレホンセンター
(東京) フリーダイヤル 0120-232-711
受付時間: 土・日・祝祭日を除く 平日9:00~17:00

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

※ 本誌には、ヒーハイトの将来に関連する記述があります。この前提及び将来予測の記述には、経営を取り巻く環境の変化などによる一定のリスクと不確実性が含まれていることにご留意ください。

以上